

教科(科目)	家庭(家庭総合)	実施学年 (履修規定)	第1学年
単位数	2単位	教科書	新家庭総合—生活の創造をめざして—
		副教材	最新 家庭科トータルデータ
科目の目標	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		
目標達成に向けての取組	実験実習を多く取り入れ、体験を通して学ぶことによって家庭や地域の生活について関心を持ち、同時に生活について見直し、課題を見付けてその解決を目指して思考を深めさせたい。		

◇ 進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4	家庭総合を学ぶにあたって	「家庭総合」をなぜ学ぶのか理解する 2 ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動の意義や方法について知る。		・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解してい
	・衣生活を設計し実践しよう	1 衣生活を見つめる 2 健康で個性的な衣生活のために 3 これからの衣生活を考える	ワークシート 授業観察 意見発表 作品評価	・時と場合、目的に適した被服材料や被服の構成、及び被服の機能を生かした適切な着装を考える。
中間考査				
6 ・ 7				・衣生活を管理する知識と技術を習得する。 ・資源の有効利用の観点から循環型の衣生活の必要性について理解する。
	期末考査			
夏季休暇		ホームプロジェクト		
9		4 被服をつくる	実習観察 作品評価	・エプロンの製作を通して基本的な縫製技術を身につける。
10	人生を見つめる	1 人生を展望する 2 家族・家庭をみつめる 3 家庭生活と社会について考える	ワークシート 授業観察 レポート	・家族に関心を持ち、生き方を考えながら自分のライフコースを描こうとしている。 ・人の一生から家族を考え、家族の在り方に関心を持つことができる。 ・家族に関する法律を理解し、将来の設計に役立てようとしている。
	中間考査			

月	単 元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
1 1 ・ 1 2	資源をいかす	1 家庭の経済生活をみつめる 2 消費生活と意志決定について考える 3 消費者の権利と責任について調べる 4 環境に調和した生活をしよう	ワークシート 授業観察 意見発表相互評価	・家庭経済や国民経済との関わり、家計の管理や経済計画の重要性について理解している。 ・消費者として主体的に判断し行動するのに必要な生活情報を適切に活用することができる。 ・消費者問題と消費者の権利や責任について関心を持ち、どのように行動したらよいか考えようとしている。 ・持続可能な社会実現のためにできることを考え、実行にうつすことができる。
期末考査				
1 ・ 2 ・ 3	子どもを育てる	1 子どもの誕生と母体の健康について知ろう 2 子どもの成長・発達と生活について知ろう 3 親になることを考えよう 4 子どもの人権と福祉について考えよう 5 保育体験実習		・子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを理解する。 ・保育の責任は親と社会にあることを理解する。 ・近年の子どもを取り巻く環境の変化について考える。 ・保育体験実習をとおして子どもと実際にかかわることで子どもに対する理解を深める。
期末考査				

評価の観点及び趣旨

①関心・意欲・態度

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

②思考・判断

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。

③技能・判断

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。

④知識・理解

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。

「家庭総合」の総合評価における各観点の割合

① 関心・意欲・態度	20%程度	② 思考・判断	30%程度
③ 技能・表現	30%程度	④ 知識・理解	20%程度